

2008
9月号

広報みはま



第31回美浜納涼花火大会 (久々子湖畔にて)

TOPICS

- **特集**「防災準備は万全ですか？」
- 姉妹都市(台湾石門郷)ホームステイ
- 議会ニュース
- 美浜町農業委員会委員
- 関西美浜会総会
- 町の環境問題への取り組み
- 美浜発電所の状況

No.452

平成20年8月22日発行

9月1日は「防災の日」です。

最近、毎日のように地球温暖化に関するニュースが報じられています。

その中には、異常気象をはじめ、砂漠化の進行や氷床の減少による海水面の上昇のほか、食糧生産、生物種の減少などが取り上げられており、どれも私たちの生活に大きな影響を及ぼす深刻な問題となっています。

そこで、今回の広報では、いつ起こるか分からない災害に備えるため、防災について特集します。

◎特集

防災準備は万全ですか？

写真・夜番(火の用心)

上段(左)山本 君枝さん・高木 敏美さん

下段(左)高木 柊くん・高木 桂くん

(菅浜区)



▲台風13号により甚大な被害を受けた耳川橋（昭和28年）



▲豪雪により雪に埋もれる家（昭和56年）



▲大雨により分断された道路（平成11年）

年・月	内容
明治23年5月	南市で火災（109戸が焼失）
大正14年5月	菅浜で大火（105戸が焼失）
昭和23年7月	豪雨により県内各河川が増水し水害発生
昭和28年9月	台風13号が上陸し、若狭地方を中心に被害が増大（町内で死者3人、全壊・流失等21戸、床上浸水233戸）
昭和34年9月	伊勢湾台風が上陸。町内で風速29m、降雨量224mmを記録（町内で、全壊・流失等2戸、床上浸水61戸、床下浸水394戸）
昭和36年9月	第2室戸台風が上陸。瞬間最大風速33.3m、雨量は、平野部で200mm、山間部で300mmを記録（町内で、床上浸水50戸、床下浸水47戸）
昭和38年1月	北陸地方に大雪。町内平野部積雪154cm（三八豪雪）
昭和38年3月	越前岬地震 美浜で震度「5」
昭和56年1月	嶺南地方に大雪。196cmを記録（五六豪雪）観測地・敦賀
昭和59年2月	嶺南地方に大雪。113cmを記録（五九豪雪）観測地・敦賀
平成9年1月	ロシアのタンカー・ナホトカ号の転覆により流出した重油が日向海岸に漂着。次いで町内全域の海岸に重油が漂着し、数か月にわたって町民・ボランティア等により回収作業が行われる
平成10年9月	台風7号により町内各地で浸水、土砂崩れ （床上浸水14戸・床下浸水84戸・土砂崩れ等約200か所）
平成11年8月	大雨により町内各地で浸水、土砂崩れ （床上浸水15戸・床下浸水100戸・土砂崩れ等95か所）
平成17年8月	大雨により町内各地で浸水、土砂崩れ （床上浸水4戸・床下浸水18戸・土砂崩れ等28か所）

■美浜町で起こった主な災害（明治以降）

町では、災害に備えて防災計画を策定しています。

町では、これまでの災害を教訓に、地域や住民の生命、財産を守ることを目的に「美浜町地域防災計画」を策定しています。

本計画では、風水害や土砂災害・地震など、想定される災害に備え、町の役割を明確にしています。

また、災害時に必要となる水や食糧などを常に備蓄し、いつ起こるか分からない災害に備えています。なお、備蓄物資の数量は、福井震災級の地震が発生した場合に必要な数量を割り出し保管してあります。



▲非常時に使用する毛布や食糧

備蓄品は次のとおりです。

- おむつ 150袋
- おかゆ 約1,000食
- 飲料水 1,200本(2ℓ)
- 毛布 約600枚



平成19年7月16日に新潟県で発生した「新潟県中越沖地震」では、美浜町独自で飲料水約500本(2ℓ)を救援物資として届けています。

また、全国原子力発電所所在市町村協議会の一員として、更に飲料水約500本(2ℓ)、ブルーシート40枚、毛布100枚、おかゆ約500食を届けています。

▼新潟県柏崎市に救援物資を搬入する町職員



一人ひとりの心がけが大切

皆さんは、防災の3本柱とされている「自助・共助・公助」という言葉を知っていますか？

●防災の3本柱

【自助】
自分の責任で、自分自身が行うこと。

【共助】
自分だけでは解決や行うことが困難なことについて、周囲や地域が協力して行うこと。

【公助】

個人や周囲、地域あるいは民間の力では解決できないことについて、公共(公的機関)が行うこと。

それぞれ、とても大切な言葉ですが、まず「自助」から始めるということを心に留める必要があります。自宅で命を落とさない、怪我をしない、あるいは自宅に閉じ込められないようにと対策を講じている世帯が多ければ多いほど、救助活動や消火活動に駆けつけることができる人が増えるため、「共助」をより充実したものとすることが可能となります。

また、共助となるべき人が次々に被災していたのでは何なりません。住民だけでは手に負えない地域が、いたるところに出現することとなれば、公的な対応は、すべてに対処し得なくなってしまうのです。

よって、一人ひとりが、被害軽減に向けて、どれくらい事前の備えをできるかが、すべての対策の始まりといえます。

町では、防災計画などにより万が一の備えをしています。が、「公助」を充実させるだけでは、今後起こりうる災害に立ち

知っておこう！避難用語

気 象予警報等が発表され、浸水やがけ崩れなどの被害を受けるおそれがある住民の皆さんに対し、町長が次の用語を発令します。予め理解しておくことは「自分の身を守る」ことに繋がります。

▶ 避難準備情報

人的被害の発生する可能性が高まった時に発令されます。

災害時要援護者(手助けが必要な人)等、特に避難行動に時間を要する方は、避難行動を開始しなければなりません。

▶ 避難勧告

人的被害の発生する可能性が明らかに高まった時に発令されます。

通常の避難行動ができる方は、避難を開始しなければなりません。

▶ 避難指示

- ・ 前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生する危険性が非常に高いと判断した時
- ・ 堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断した時
- ・ 人的被害が発生した時に発令されます。

未だ避難していない方は、ただちに避難しなければなりません。

町では、これらの情報を「防災行政無線」や「ケーブルテレビの行政チャンネル」等でお知らせします。

向かうことは困難です。災害の被害として最も深刻なのは人命を失うことです。被害を完全になくしてしまうことはできませんが、人の命を守ることによって、被害を小さくすることができます。

自助、共助、公助の3つは、いろいろな形で相互に支えあう関係にあります。あらためて、そのあり方について、どのように助け合うべきかについて、考えてみる必要があります。

『自分の命は自分で守る』という意識を常に持ち、個人と個人の集団である地域と、行政とが力を合わせて、人の命を失うこととの無い、災害に強い町を目指しましょう。



▲美浜町防災ハンドブック
(平成18年10月配布)
町のホームページに掲載しています。
<http://www.town.mihama.fukui.jp/>

町では、町民の皆さんが災害時にどう対応すればよいかを記した「美浜町防災ハンドブック」や「美浜町洪水ハザードマップ」を作成し、各戸に配布しています。その中には、各地域の避難場所や、町からの情報伝達の流れなど、いろいろな情報を掲載しています。

この機会に、再度確認してみましょう。

防災パンフレットを
確認しましょう



▲美浜町洪水ハザードマップ(平成20年7月配布)
※このハザードマップは、耳川が氾濫した場合に想定される浸水の範囲と深さの最大を表示しています。

町の安全を守る消防団を紹介します。

消防団は、郷土愛と社会奉仕精神に基づき、火災をはじめとする各種災害の防除や被害の軽減、地域の安全確保のため組織されたものです。

消防団の活動は、地域を火災等の災害から守ることで、消防団員は、普段は自分の職業に就きながら、火災はもちろんのこと地震や風水害等の大規模災害時にも防災活動にあたります。

また、災害時以外は火災予防や住民に対する啓発活動など幅広い分野で「地域や地区における防災のリーダー」として活動しています。

現在の団員数は、225人で災害時には、消防団長の指示の下、普通消防ポンプ自動車や小型動力ポンプ積載車で現場に急行します。



普通消防ポンプ自動車



小型動力ポンプ積載車

○美浜消防団の配置状況

(平成20年4月1日現在)

	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
団長・副団長	1	1						2
第1分団(全町)			1	1	3	3	13	21
第2分団(東地区)			1	1	8	8	64	82
第3分団(耳地区)			1	1	5	7	53	67
第4分団(西郷地区)			1	1	5	6	40	53
合計	1	1	4	4	21	24	170	225

インタビュー

災害の備えについて必要なことを、美浜消防団長 藪ノ内太喜さんにお聞きしました。



些細なことでも 大きな力に

美浜消防団
団長 藪ノ内太喜さん(興道寺)

地震に備えて家具を固定する。また、水害に備えて土嚢袋を用意しておくなど、災害に備えるべきことはたくさんあります。私も自宅で、さまざまな備えをしています。以前知人の話

を聞き、その置き場所も考えるようになりました。

例えば、消火器です。私は、これまで火の使う台所などに置いていましたが、現在は玄関に置いてあります。それは、万が一火事があった場合、誰もが目につく玄関に置いておけば、初期消火に繋がります。火の拡大を防ぐことができるからです。家庭によつては、寝室や廊下などに置いておくといいと思います。一長一短があるかもしれませんが、それぞれの備蓄品の場所を再確認してみたいかがでしょうか？

また、水害時には土嚢の代わりに肥料袋を代用するなど、災害専用のものを買わずに、家庭にあるもので対応できるものもありますので、各家庭でいろいろ考えてみるのもいいでしょう。なお、災害の種類や規模にもよりますが、非常時は慌てて何を持って、どこに逃げてよいか分からない状態に陥ることがあります。今一度、各家庭の非常持ち出し袋、また自分たちが避難する場所を確認してください。